

第 203 期定時株主総会 質疑応答要旨

2023 年 6 月 24 日（土）に開催しました当行第 203 期定時株主総会において頂戴しました主なご質問および当行の回答要旨を以下のとおり紹介いたします。

1	
質問	事業報告でも説明のあった野村証券との包括的業務提携について、もう少し深く教えてほしい。
回答	野村証券との包括的業務提携の目的は、福井銀行の強みと野村証券の強みをあわせることにある。具体的には福井銀行の顧客基盤と野村証券の営業ノウハウ、システム、商品ラインナップなどの強みを合わせることで、実際にこれまでご提供できなかったような付加価値を提供できるようになってきている。そのための拠点として、すでに県内に 4 か所のコンサルティングプラザを開設し、稼働している。

2	
質問	株価純資産倍率（PBR）1 倍超に向けた取組みを教えてほしい。
回答	現在の PBR は 0.27 倍で地銀平均程度となっている。PBR を高める対策としては、利益水準の向上が重要であると考えており、そのために中期経営計画をスピーディーに実践していく。

3	
質問	招集通知には「配当性向を 20% 程度とすることを目途としております。」との記載があるが、高い配当性向を示している他社と比較しても、この水準で本当に良いと考えているのか。
回答	福井銀行の配当方針は、1 株当たり年間 50 円の安定配当に業績連動配当を合わせて、配当性向 20% 程度を目標としている。ただ、足元の収益状況から実際は高い配当性向が続いている状況となっている。自己資本充実とのバランスをとった配当政策が大事と考えており、今後も現在の配当方針を維持していく。

4	
質問	海外の金利はこれまで大きく上昇しているが、福井銀行が保有している外国債券への影響はどうか。
回答	世界的な金利上昇で含み損が発生した外国債券について、昨年度中、早めの売却を行うなどの対策を行ってきた。その結果、2023 年 3 月末現在の保有有価証券全体では 27 億円の含み益となっている。今後は予兆管理やストレステストなど適切なリスク管理を今まで以上に行い、金利の変化による収益への影響を抑えていきたい。

5	
質問	福井銀行・福邦銀行両行の今後の店舗統廃合等、店舗展開について教えてほしい。
回答	店舗数については、実店舗への来店客数の減少に加えて、お客さまニーズの変化を受けて、中期経営計画の中では3年間で約2割の削減を予定している。店舗数減少の代替策としては、福井銀行アプリなど非対面チャネルを強化している。また、野村証券との提携によるコンサルティングプラザや、保険・ローンプラザの展開など、相談の場としてのニーズに応じていく。

6	
質問	福井銀行と福邦銀行の関係性について、現在は福邦銀行を子会社として運営しているが、将来的にはこういった形を考えているのか教えてほしい。
回答	現在は2ブランドで営業を行っているが、それは統合できるものは効率化したうえで、両行のお客さまの層の違いを活かすことが、お客さまにも両行の職員にとっても最良と考えてのことである。今後については、全体最適、将来最適の観点から見直しを行う可能性はあるが、当面は現在の形を維持していく。

以上